

地域人材の育成と活動促進に関する調査研究報告書

ダイジェスト版

佐賀県立生涯学習センターでは、社会状況の変化に対応する生涯学習のあり方を調査・研究するため「生涯学習基礎データ調査研究事業」に取り組んでいます。



1. はじめに ～学校支援について～

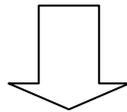
【改正教育基本法】

- ・「学習成果を適切に生かすことのできる社会の実現」(第3条)
- ・「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」(第13条)



生涯学習の成果を地域課題の解決へと発展させることが求められている

そこで・・・



県民の学習成果や学習意欲を地域活動につなげる方策の一つとして、多くの学校で取り組まれている学校支援ボランティアに着目



「地域住民による学校支援に対するボランティア活動」



地 域

学校を支援することで住民のボランティア活動を地域に活かす

学 校

子どもたちが学校で多様な人材に接することで教育の向上・充実を図る



「地域の子ども」は「地域で育てる」

という意識と仕組みを生み出すことが期待できる活動

2. 調査の目的

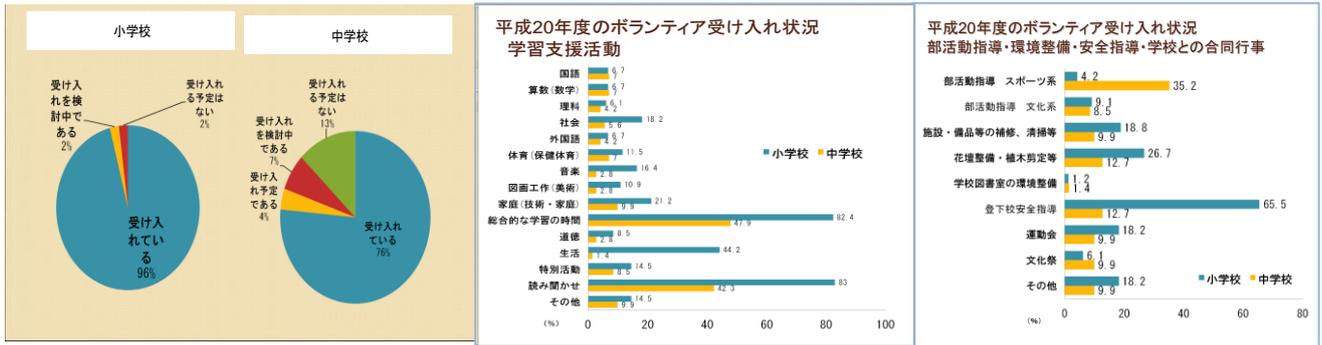
学校支援ボランティアは、すでに多くの学校で登録制度があり、実際に活動も行われているが、児童生徒の実態や児童生徒を取り巻く環境は、従来とは大きく異なっており、知識や技術、意欲だけでは期待される成果を得ることは難しい。そこで、学校支援ボランティアの活動が学校にとっても、ボランティアにとっても、有意義なものとなるにはどのような支援が必要なのかを調査研究する。

3. 調査の方法

質問紙：佐賀県内の小、中学校と学校地域連携コーディネーター

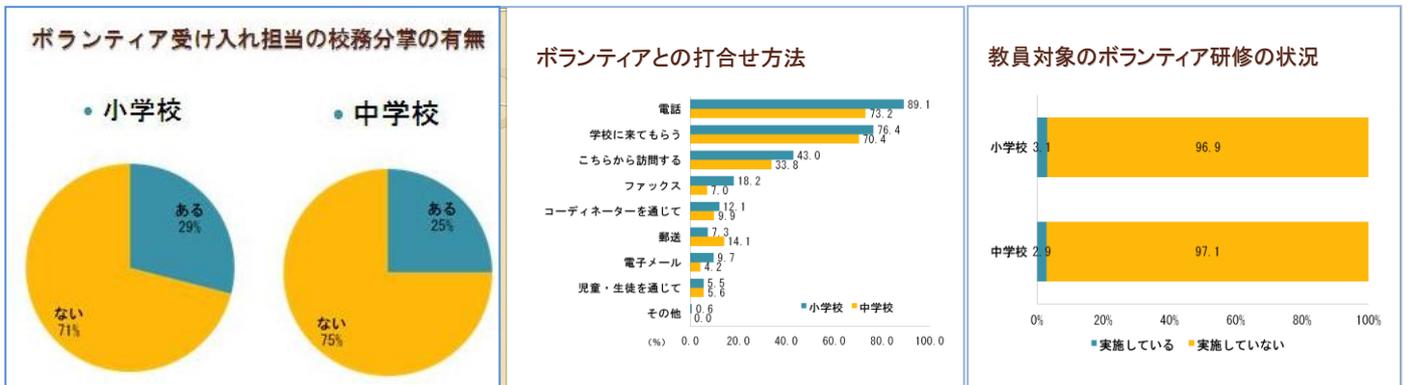
4. 佐賀県内の学校支援に関する活動の現状は？～学校への調査結果～

《ボランティア受け入れ状況》



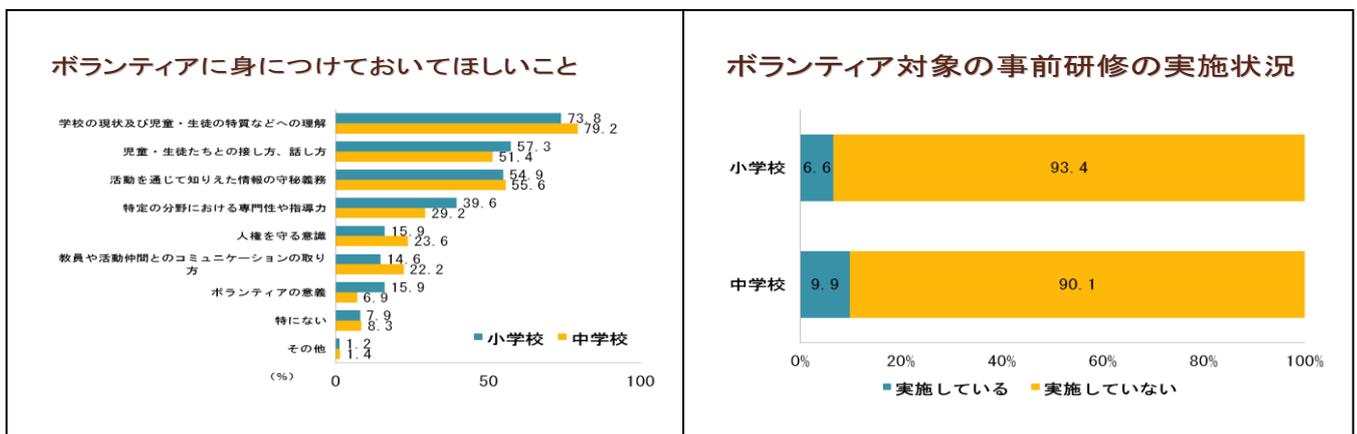
- ・小学校は「受け入れている」、「受け入れを検討中」を含め98%、中学校は87%が「受け入れている」、「受け入れを検討中」になっている。
- ・小、中学校とも多くの学校が「読み聞かせ」と「総合的な学習時間」でボランティアを活用している。
- 【特徴】小学校は「登下校安全指導」、中学校は「部活動指導 スポーツ系」でボランティアを活用している。

《ボランティア受け入れ体制（学内の体制）》



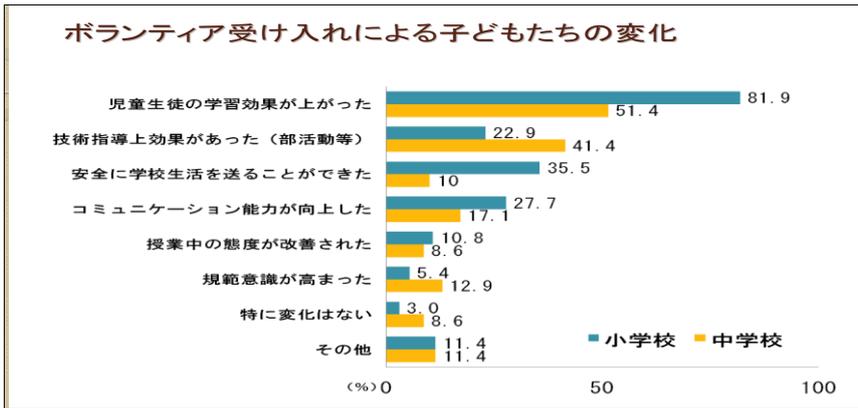
- ・ボランティアを受け入れる際の担当の校務分掌は小学校が29%、中学校25%がある。
- ・打合せ方法は、「電話」、「学校に来てもらう」、「訪問する」など『直接』話をしながらのやりとりが多い。
- ・教職員対象のボランティア研修は、ほとんど実施されていない。

《ボランティア受け入れ体制（ボランティアの体制）》



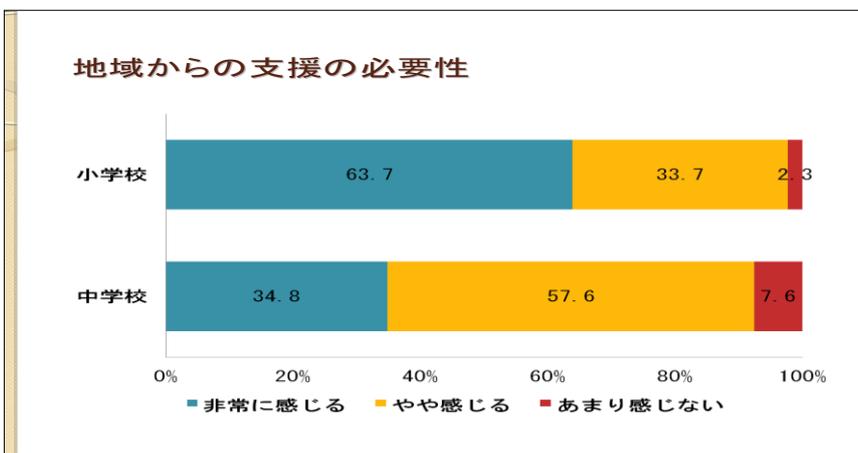
- ・ボランティアに身につけておいてほしいのは、「学校の現状及び児童・生徒の特質などへの理解」が一番多く、次に「児童・生徒たちとの接し方、話し方」、「活動を通じて知りえた情報の守秘義務」など、学校や児童生徒に関することが、小、中学校とも共通していた。
- ・「学校の現状、児童生徒のことを知ってほしい」と思っているが、ほとんど研修は実施されていない。

《ボランティア受け入れ成果》



小、中学校共に「児童生徒の学習効果が上がった」が最も高い。2番目に高いのは、小学校は「安全に学校生活を送ることができた」が、中学校は「部活動等の技術指導上の効果」が高い。ボランティアを活用することにより、児童生徒の学習効果に変化がでている。

《ボランティア受け入れ継続の必要性》



小学校が 97.4%、中学校が 92.4%と、ほとんどの学校が地域からの支援の必要性を感じている。

5. 佐賀県学校地域連携コーディネーターの現状とコーディネーターからみた学校支援ボランティアは？ ～コーディネーターへの調査結果より～

コーディネーターの経歴

元教職員だけでなく、会社員、保育士など様々。これまでの学校や地域での活動、ボランティアの経験などがコーディネーターの活動にいかされている。

コーディネーターをやっていると良かったこと

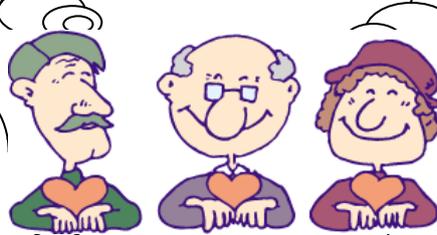
- ・児童、生徒から若さ、エネルギーをもらっている。
- ・学校支援の輪が広がっているのを感じたとき。
- ・学校の先生や地域の方々と触れ合えること、知り合えること。

コーディネーターに必要な知識、技能

「学校と地域の現状を理解していること」と「教職員や活動仲間とのコミュニケーションがとれること」にコーディネーター全員が必要と感じている。

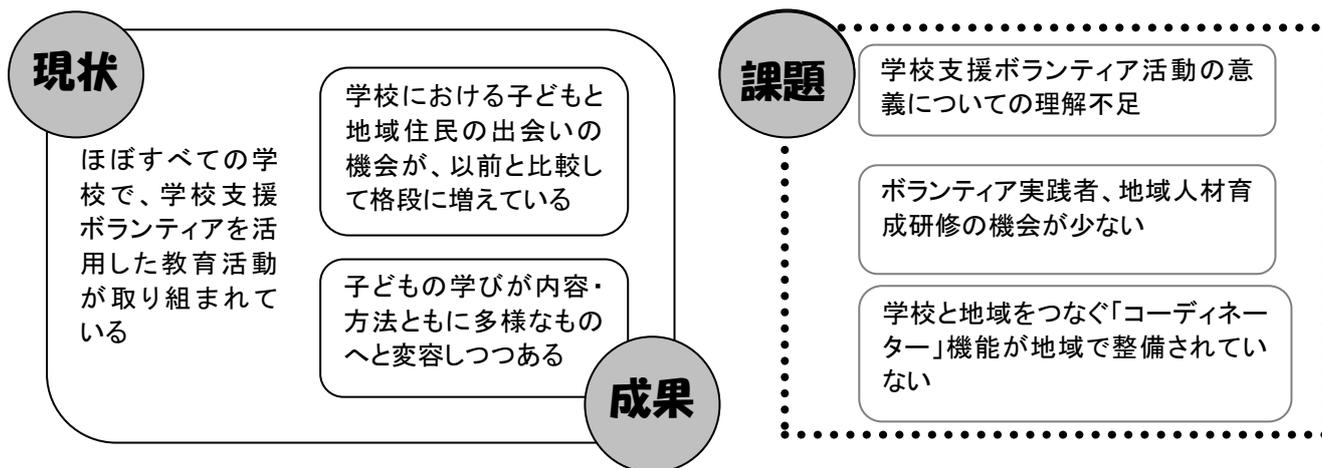
コーディネーターの不安や悩み

- ・地域やボランティアの人にコーディネーターの仕事を理解してもらっているのか？
- ・学校からの要望にそえなかったこと。
- ・一人で手探り状態なので、横のつながりがほしい。



**学校地域連携
コーディネーター**

6. アンケート調査結果から浮き彫りになった学校支援活動の「現状成果」と「課題」



7. 事業モデルの開発 ～学校支援ボランティア・コーディネーター養成講座～



学校支援に関する理念及び意義の理解を図るための研修会
(会場：アバンセ)

講座内容

- (講義) なぜ学校支援が必要か
- (報告解説) 学校支援ボランティアの可能性
- (成果発表) 県内の地域ボランティアによる学校支援の実際

学校支援活動の具体的実践と方法についての少人数でのワークショップ形式での研修会
(会場：神崎市、嬉野市)

講座内容

- (事例紹介) 地域に根ざしたキャリア教育の舞台裏
～民間コーディネーター学校・地域・企業をつなぐ～
- (講義演習) 学校支援の要望をつかむコツ
～対話の中からみえてくる活動～

今後の学校支援活動に必要な研修テーマとは？～講座受講生へのアンケート結果から上位3位～



- ①地域による学校支援の意義
- ②学校・児童への現状理解
- ③ボランティア同士の仲間づくり

その他意見

- ・活動に活かせる技能の習得
- ・児童生徒への接し方、話し方

8. まとめ

今回の調査研究において、佐賀県内の小中学校における学校支援に関する活動の実施・導入状況と、そこにおける課題点が具体的な数値として把握できた。そして、調査結果を踏まえ、事業モデルの開発を行い、学校支援ボランティア・コーディネーター養成講座から、地域での学校支援を促進するための施策として人材育成研修の必要性が高いことが示された。

まずは**地域全体で子どもを育てるという共通認識を図る場の設定が必要**。学校と地域の垣根を超えたつながりや関係性を構築していく過程において、**学校支援に係る人材育成を目的とした研修を、地域の各現場で取り組まれることが望まれる**。

発行：佐賀県立生涯学習センター（アバンセ）
佐賀県佐賀市天神三丁目 2-11 TEL:0952-26-0011 FAX:0952-25-5591
E-mail: syougai@avance.or.jp

詳しくは、報告書を参照ください：<http://avance.or.jp/data/h21kiso.pdf>